

事業名	こまえ市民大学 連続講座				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度	雑入180,000 ※受講料	雑入156,200 ※受講料	報償費1,342,000 需用費63,000 委託料286,000 使用料及び賃借料106,000	報償費926,000 需用費25,866 委託料278,070 使用料及び賃借料49,800	
令和2年度	雑入213,000 ※受講料	雑入56,200 ※受講料	報償費1,334,000 需用費63,000 委託料338,000 使用料及び賃借料106,000	報償費655,000 需用費34,198	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	市民の学習要求に対応し、様々な学習機会を提供する。	持続可能な開発目標 (SDGs)	 		
事業内容	開催頻度	年間24回(月に2回、土曜日開催) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、R2年度は計9回の開催			
	新規・継続	継続	実施主体	市・運営委員会	
	実施対象	市民	参加者数	延291人	
事業評価 <評価視点>	評価項目	評価理由		評価	
	<周知> 市民に周知されているか	およそ1ヶ月前に広報に掲載し、市内掲示板へチラシを掲示した。また、教育委員会ホームページでも掲載し、各回30名を超える申込みがあった。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	<環境> 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	運営委員会は職員3名、運営委員10名で次回講座予定などの企画調整を行った。講座当日は、職員1名と運営委員7名程度で会場設営、受付、片付け、消毒に取り組み、円滑な事業運営ができた。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	<満足度> 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	アンケート結果の8割以上が「大変よかった」または「よかった」と回答していた。また、講座当日の質疑応答でも「講義を聞いて良かった、また聞きたい」との声があった。		公民館 A	公運審 A
全体 A					
<達成度> 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	新型コロナウイルス感染症の影響により、前半は開講できず、開講後も定員を40名に縮小し、当初の見込み参加人数には届かなかったが、それでも毎回30名以上の申込みがあった。参加リピーターも多く、市民に対して定期的に学びの場を提供できていると言える。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
<学び> 市民の学びの場として貢献できているか 生涯を通じて学びを提供できているか	毎回異なるテーマで講座を開講しており、幅広いジャンルについて学びの機会を提供できている。また、年齢層に偏りはあるものの、参加者のリピーターが多いため、生涯を通じた市民の学びの場としての機能していると言える。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度までは、立ち見が出る回もあるほど人気の講座となっていたが、新型コロナウイルス感染症に伴い、3密を避ける工夫を行わなければならなくなった。引き続き、感染対策を徹底した運営を行う必要がある。 講座テーマについて、若年層が興味を持つような内容を検討する。また、他市区町村の事例を調査する。 周知については、市内民間業者(鉄道会社や販売店等)に協力を呼びかけるといった工夫が必要である。 				
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 講座のアンケート結果からも8割以上が「大変よかった」または「よかった」と回答していたことから、事業に満足いただけていることが分かる。 新型コロナウイルスの影響もあり、事業中断の期間があったが、例年どおり多くの方に参加いただけた。 参加者の固定化、高齢化が見られるので、講座テーマの選定や開講時間の変更等の工夫により、新規参加者や若年層をもっと呼び込めるような取り組みを検討する必要がある。 				